

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『高い人間力と明確な目標を持ち、弛まぬ努力をする生徒を育てる学校』。キャッチフレーズは『やる気と元気の溢れる芥川』。

- 1 「主体的に進路を切り拓いていく力」を持った生徒の育成 <学力向上と希望進路実現を確かな歩みで>
- 2 グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成 <使える英語力と国際感覚を育てる教育がベース>
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成 <体験学習の充実や学校行事、部活動の振興、規範意識の醸成や人権意識の向上を中心に>

## 2 中期的目標

- 1 「主体的に進路を切り拓いていく力」の育成 <学力向上と希望進路実現を確かな歩みで>
  - (1) 学力の向上 (授業力向上による授業改善、学習環境整備等)
    - ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造するため、生徒による授業アンケート等を活用した組織的な取組を推進する。
    - イ ICT を活用した授業改善についての研究を推進する。
    - ウ 自学自習力をつける。

\* 授業アンケートの結果、授業満足度は平成 25 年度が 71.6%。これを引き上げ、平成 28 年度には 80%とする。
  - (2) 希望進路の実現
    - ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。
    - イ 面談等の進路指導に活用できるスペースを新たに整備し、個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。

\* 多くの新入生が四年制大学進学を希望する中、四年制大学現役進学率は平成 24 年度で 62%。これを引き上げ、平成 28 年度には 70%とする。
- 2 グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成 <使える英語力と国際感覚を育てる教育がベース>
  - (1) 使える英語力の育成
    - ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。
    - イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、日本英語検定等の資格取得や G T E C 得点率向上をめざす生徒を増やす。

\* 平成 25 年度の英語検定等資格取得者は 31 人、G T E C 得点が全国平均以上の者 25%。これを、平成 28 年度にはそれぞれ倍増させる。
  - (2) 国際感覚の育成
    - ア 交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。
    - イ 海外修学旅行等の推進により異文化と触れる機会を確保する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、国際理解教育に対する肯定率は平成 25 年度が 66.8%。これを毎年引き上げ、平成 28 年度には 80%とする。
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成 <体験学習の充実や学校行事、部活動の振興、規範意識の醸成や人権意識の向上を中心に>
  - (1) 体験学習の充実
    - ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。
    - イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、地域との関わりに対する肯定率は平成 25 年度が 71.3%。これを毎年引き上げ、平成 28 年度には 80%とする。
  - (2) 学校行事、部活動の振興
    - ア 学校行事の地域等への公開の度合いを深化させる。
    - イ 部活動の活性化を図る。

\* 新入生入部率は平成 25 年度が 88.5%。これを毎年引き上げ、平成 28 年度には 90%とする。
  - (3) 規範意識の醸成
    - ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底する。
    - イ 生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、規範意識に関する設問の肯定率は平成 25 年度が 90.4%。平成 28 年度まで 90%以上の水準を維持する。
  - (4) 人権意識の向上
    - ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にする人権教育を推進する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、人権教育に対する肯定率は平成 25 年度が 64.5%。これを毎年引き上げ、平成 28 年度には 80%とする。
- 4 信頼される学校づくり (教員力と情報発信力の向上)
  - (1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。
  - (2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。
  - (3) 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を発信する。

\* 生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率は平成 25 年度が 77.6%。これを毎年引き上げ、平成 28 年度には 85%とする。

\* 保護者向け学校教育自己診断における、情報発信に対する肯定率は平成 25 年度が 87.6%。これを毎年引き上げ、平成 28 年度には 90%以上とする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】</p> <p>診断結果の向上率 (すべての質問の内肯定率が前年度より向上した質問の割合) は、生徒対象で 81.0%、保護者向けで 73.7%と高い一方で教員向けは 42.9%と低い。学校教育自己診断結果ばかりでなく授業アンケート結果や懲戒件数、遅刻数なども改善している状況を考え合わせれば、本校教育のさらなる改善のため多くの教員が課題を認識していることを示していると考えられる。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>授業のわかりやすさを問うた質問 (生徒向け) の肯定率は前年度比 9.6 ポイントアップの 75.8%であり、初めて 70%を超えた。また「子どもは授業がわかりやすいと言っている」という質問に対して、保護者の 60.6</p>	<p>【第 1 回】 平成 26 年 7 月 9 日 (水)</p> <p>・遅刻指導について</p> <p>1 学期終了時点の集計で前年同時期比 34 ポイント減という大きな変化を見せた遅刻者数について分析する中で、委員から次の意見が出された。</p> <p>「保護者と連携した指導方法への転換が生徒の意識を変えたのではないか」</p> <p>「遅刻数減少は学校生活への期待の現れ。中学生にも良いモデルを示している」</p> <p>「数字で表れる成果はわかりやすいので、もっと積極的に発信すべき」</p> <p>・携帯電話スマホ指導について</p> <p>1 学期末考査終了時点において前年同時期比でほぼ三分の一に減少した指導件数について分析する中で、委員から次の意見が出された。</p> <p>「ルールの押し付けではなくマナーを教える指導は社会に出てからも役立つ指導」</p>

## 府立芥川高等学校

%が肯定的な意見を持っている。一方で、「芥川高校はわかりやすい授業をするための工夫を積極的に行っている学校である」という質問の肯定率を見ると、91.5%と高い教員に比して生徒は75.8%とその差は15ポイントを超えている。これらの結果から、全体として授業力が向上していることが伺えるとともに、課題として、教員の工夫や努力がまだ十分に生徒に浸透していないことがわかる。

進路指導に対する肯定率は3.8ポイントアップの88.3%、進路に関する情報提供の満足度は2.6ポイントアップの86.7%であった。進路指導関係の満足度や肯定率は毎年改善傾向が強く、教員の粘り強い指導が奏功しているのではないかとと思われる。

## 【生徒指導等】

懲戒件数、遅刻者数、携帯スマホ指導件数等生徒指導に関する指標がどれも大幅に改善している中、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導に関する肯定率は85.2%と高く、また、「芥川高校に行くのが楽しい」という質問に対して肯定的な意見を述べている生徒も85.1%と初めて85%を超えた。これらのことは、生徒が安心して学校生活を楽しめる素地ができていていることを示していると考えられる。

また、前年度の診断で他の項目に比べ低迷が指摘されていた人権教育に関する質問においても前年度比17.8ポイントアップの82.3%という大きな改善をみることができた。このことは生徒に身近な人権課題をタイムリーに取り扱うとともに人権教育推進委員会を中心として教員が組織的に人権教育を行った結果であると考えている。

「成果が上がると教員のモチベーションも向上し良い循環が期待できる」

「今回の手法は生徒を信じて自律性に期待する芥川高校らしいやり方」

## ・進学実績について

平成25年度の四年制大学進学率はおよそ60%。前年度より少し苦戦した原因は近畿大学合格者の減少が大きい。一方で関関同立合格者が過去最高の18人となるなど成果も見えてきた。このことを受け、委員から次の意見が出された。

「生徒の中に、一般入試まで頑張るという意識が浸透した結果ではないか」

「早い時期に進学先を決めてしまいたいという意識は保護者にも根強い」

## 【第2回】平成26年10月15日（水）

## ・学校新聞「芥川」を活用した地域への情報発信について

創刊200号記念号を示しながら説明したところ、図表がわかりやすくインパクトが大きい等の評価をいただいた後、委員から次の意見が出された。

「地域向け特集ではなく通常の学校新聞「芥川」を地域に読んでもらってはどうか」

## ・部活動を通じた中高連携について

委員の一人である近隣中学校長から、今後も部活動を中心とした中高連携を進めていきたい旨の意見が出された。

## ・生徒指導の成果について

第1回学校協議会以降も順調に推移している生徒指導の成果（遅刻者数、携帯電話スマホ指導件数）について生徒指導主事から説明した後、委員から次の意見が出された。

「通学時の芥川高校生の様子も好感が持てる」

「今後、中だるみが無いようしっかりと指導してほしい」

## 【第3回】平成27年2月4日（水）

## ・家庭学習時間の現状について

1年生対象の調査によると平均29分と少ない。家庭学習時間の伸長について具体的な方策が必要ではないかとの意見が出された。

## ・進路指導について

関関同立現役合格数19は前年度比約3割増（H25;15）。H24以前から見ればほぼ4倍に伸びた。これに至る取組み等本校の進路指導の取組みが教育雑誌の特集記事になる予定。

## ・交通安全指導について

道路環境改善に向けた高槻市の取組みに、高槻市立第二中学校とともに協力する（交通危険箇所に関する意見聴取）。交通安全指導は結局「自覚を促す指導」に行きつくことから、生徒の意識変革を起こすような指導を検討すべきとの意見が出された。

## ・若手教員育成方策について

本年度、若手教員による自主研修を5回実施した旨報告したところ、委員から、他校（私学）でも同様の取組みで授業力や教員力の向上に効果があった例があるとの情報提供があった。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「主体的に進路を切り拓いていく力」の育成	<p>(1) 学力の向上</p> <p>ア より「魅力的な授業」「わかる授業」を創造するため、生徒による授業アンケート等を活用した組織的な取組を推進する。</p> <p>イ ICT を活用した授業改善を推進する。</p> <p>ウ 自学自習力をつける。</p> <p>(2) 希望進路の実現</p> <p>ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力をつけさせるキャリア教育を推進する。</p> <p>イ 個々の希望進路に応じたきめ細かい進路指導を充実させる。</p>	<p>ア・すべての教員が授業改善方策を定め、1学期当初にすべての授業で「学習の仕方」の指導を徹底する。</p> <p>・年度当初に「授業改善に向けた本年度の共通取組項目」(「あくたベース」)を示し、評価・育成システムを活用しながら、各教科及び教員ごとに PDCA サイクルに沿ってこれを運用する。</p> <p>・「授業見学期間」など独自の手法で授業力の向上を図る。</p> <p>・3学期にワークショップ形式の教員研修を実施し、次年度の「あくたベース」を策定する。</p> <p>イ・すべての教員がICTを活用することのメリットを実感することを目的として、ICT活用授業を年間10コマ以上公開する。</p> <p>・ICT授業展開のための環境を整備する。</p> <p>ウ・生徒が教員に質問する際に活用できるスペースを整備する。</p> <p>ア・職業別ガイダンス、オープンキャンパス等を充実させるなど、入学当初から系統的なキャリア教育を展開する。</p> <p>イ・ホームルーム教室以外に面談場所として活用できるスペースを整備するとともに、学力分析システムを活用した懇談等きめ細かい進路指導を充実させる。</p> <p>・大学入試結果を詳細に分析し、大学別進学ガイダンスの内容をより実効性の高いものにする。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率 70%以上。(H25 ; 66.2%)</p> <p>イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒の意識に関する項目) 75%以上。(H25 ; 71.6%)</p> <p>ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率 70%以上 (H25 ; 68.5%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度 85%以上。(H25 ; 83.3%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 85%以上。(H25 ; 84.1%)</p> <p>・四年制大学現役進学率 65% (H24実績 ; 62%)</p>	<p>ア・肯定率は75.8%と大幅に向上した。この結果は「あくたベース」が浸透し授業力向上にむけた教員の努力が成果となって表れたものと考えられる。次年度は目標を大幅に上方修正する。(◎)</p> <p>イ・授業満足度は平均で75.2%(1回目75.8%、2回目74.5%)と目標を上回った。授業観察と授業研究、授業力向上のための教員研修等を充実させ、次年度も目標を達成したい。(○)</p> <p>ウ・実施率は平均で77.9%(1回目78.3%、2回目77.5%)と目標を大幅に上回った。このことは、授業改善により生徒の学習への取り組み姿勢が良くなってきていることを示している。次年度は目標を上方修正する。(◎)</p> <p>ア・満足度は88.3%と目標を上回った。原因としては大学別に入試結果を分析し指導方針を統一することができたこと、さらには方針に基づいた個別の進路指導が充実したことが挙げられる。次年度は目標を上方修正する。(○)</p> <p>イ・満足度は86.7%と目標を上回った。この一因としては、学力分析システムを進路指導室に増設し懇談等個別の進学指導に活かしたことが挙げられる。次年度は目標を上方修正する。(○)</p> <p>・四年生大学進学率は59.8%と目標に達しなかったが、これは近畿大学の志願数大幅増等の影響もあると考えられる。(△)</p>
グローバルな視野を持ち、「自ら考え行動する力」を持った生徒の育成	<p>(1) 使える英語力の育成</p> <p>ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力を育成する。</p> <p>イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得を推進する。</p> <p>(2) 国際感覚の育成</p> <p>ア 交流生の派遣や受け入れ等国際交流を促進する。</p> <p>イ 海外修学旅行等で異文化理解の機会を確保する。</p>	<p>ア・グローバル専門コース選択科目において京都外国語大学と連携した授業を展開するとともに、ICTを活用して生徒が直接海外の高校生と交流できる機会を提供する。</p> <p>イ・授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒には全員GTEC受験機会を与える。</p> <p>ア・ミラニ高校(オーストラリア)萬芳高級中学校(台湾)等の高校生との交流機会を設定するとともに、現在受け入れている交流生(スイス)との交流を促進する。</p> <p>イ・台湾修学旅行を継続実施し、現地の高校生や日本文化を学ぶ大学生との交流事業を実施する。</p>	<p>ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度75%以上。(H25 ; 72.1%)</p> <p>イ・英語検定等の資格取得者数 H25比20%増。(H25 ; 31人)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における海外の交流生と関わる機会への満足度75%以上。(H25 ; 71.9%)</p> <p>イ・台湾修学旅行における国際交流活動への満足度90%以上の水準維持。(H25 ; 94.0%)</p>	<p>ア・専門コース授業満足度は82.2%(1回目84.0%、2回目80.3%)と大幅に目標を上回った。原因としては授業力の向上に加え、メールで海外(インドネシア)の高校生と交流する等の新しい試みが生徒のモチベーションを押し上げていることが推察される。次年度は目標を上方修正する。(◎)</p> <p>イ・英語検定資格取得者数は計3回中2回の結果を得た時点で26人。3回目を合わせても目標達成は厳しい予想である。生徒への周知方法等を工夫し引き続き目標達成をめざしたい。(△)</p> <p>ア・満足度は82.2%と大幅に向上した。原因としては、修学旅行先の台湾での交流校(萬芳高級中学校)が5月に来校したことが挙げられると考える。次年度は目標を大幅に上方修正する。(◎)</p> <p>イ・満足度は94%と目標に達した。交流内容にも毎年工夫がなされ充実している。この目標は今後も達成可能と考えられるので、次年度は別の指標を検討する。(○)</p>

## 府立芥川高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「豊かな人間力」を持った生徒の育成	<p>(1) 体験学習の充実</p> <p>ア 保育園実習と老人ホーム実習をより充実させる。</p> <p>イ 地域と連携した体験活動の充実を図る。</p> <p>(2) 学校行事、部活動の振興</p> <p>ア 学校行事の地域等への公開の度合いを深化させる。</p> <p>イ 部活動の活性化を図る。</p> <p>(3) 規範意識の醸成</p> <p>ア 全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底する。</p> <p>イ 生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。</p> <p>(4) 人権意識の向上</p> <p>ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にす人権教育を推進する。</p>	<p>ア・施設との連携強化により、保育園及び老人ホーム実習の事前事後指導の充実を図る。</p> <p>・運動会や親子交流行事など保育園行事への実習参加を促進する。</p> <p>イ・地域主催行事等へのボランティア参加を拡充し、交流の機会を増加させる。</p> <p>ア・学校行事への地域等関係者の招待など地域や近隣施設との連携を深める。</p> <p>イ・新入生入部率の向上を図るとともに、近隣の学校や施設、自治会等の団体との連携を深める。</p> <p>ア・生徒指導をより実効性の高いものとするため、生活時間の自己管理等生徒の実態に立脚した指導方針を示し、すべての教員が統一した指導を行う。</p> <p>・特に遅刻指導においては、遅刻常習者を中心に毅然とした姿勢で対処すると同時にキャンペーン等の手法も用い、具体的な数値目標を定めて多面的かつ段階的な指導を行う。</p> <p>イ・交通安全指導週間や防災避難訓練、薬物乱用防止教室等様々な機会を捉え、専門機関等の協力のもと規範意識を向上させるための指導を行う。</p> <p>ア・教科や特別活動において同和問題や外国人差別、女性差別等人権教育計画に基づいた人権教育を実施するなど学校教育活動全般を通じて、一人ひとりを大切にす教育を実践する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率 70%以上。(H25 ; 66.8%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率 75%以上。(H25 ; 71.3%)</p> <p>ア・体育祭や文化祭、授業発表会等への外部招待者数を10%向上させる。</p> <p>イ・新入生入部率 90%以上。</p> <p>・近隣の学校等と連携した活動回数を10%増加させる。</p> <p>ア・懲戒件数、10件以下。(H25 ; 11件)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率 90%以上の水準維持。(H25 ; 90.4%)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 70%以上。(H25 ; 64.5%)</p>	<p>ア・肯定率は73.6%と目標を上回った。この結果は、実習施設職員を講師とした事前指導や授業以外での保育園との関係強化が結実したものであると考える。(○)</p> <p>イ・肯定率は75.7%と目標を上回った。生徒会執行部の夏祭り(自治会主催)や募金活動への参加が広く認知されたことが良い影響となっているのではないかと考えられる。(○)</p> <p>ア・外部招待者数は12%増の1,862人。文化祭には地域の老人福祉施設からも来校いただいた。(○)</p> <p>イ・新入生入部率は88.5%と目標に到達しなかった。一方、近隣の学校等と連携した回数は15%増の115回。和太鼓部、吹奏楽部、軽音楽部、ダンス部の増回が影響した。(△)</p> <p>ア・懲戒件数は6件と目標より大幅に少ない。このことは、生徒指導部が中心となってルールやマナーを主体的に守らせる指導を保護者の協力を得て徹底したことが奏功していると考えられる。(◎)</p> <p>イ・肯定率は91.8%と目標水準をクリアしている。このことは、これまで以上に一つ一つの事案に時間をかけて対応し、その成果を集会等で報告してきたからだと考えられる。(○)</p> <p>ア・肯定率は82.3%と大幅に目標を上回った。この結果は、人権教育推進委員会が生徒の身近にある人権課題を適切に捉えた教育を企画した成果であり、今後もさらに充実させたい。(◎)</p>
信頼される学校づくり(教員力と情報発信力の向上)	<p>(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上を図る。</p> <p>(2) 開かれた学校をめざし、学校情報を積極的に発信する。</p> <p>(3) 中学生やその保護者に対して、適切な進路情報を発信する。</p>	<p>・今日的な教育課題や業務の円滑化・連携強化につながる教員研修の充実を図る。</p> <p>・若手教員が中心となって企画運営する、教員の自主研修の充実を図る。</p> <p>・より魅力あるホームページをつくり、タイムリーに必要な情報を発信する。</p> <p>・地域を対象とした新聞「芥川」地域版を発行するとともに、中学校向けに新聞「芥川」を発行する。</p> <p>・オープンスクールの内容を改善し、これまでからニーズの高かった部活動体験を追加する。</p> <p>・中学生やその保護者の興味や関心を的確に把握し、学校説明会や中学校への情報提供等をよりタイムリーかつニーズに合致したものにする。</p> <p>・学校メールマガジンの発信方法及び内容を工夫し、保護者の学校への関心がより高まるようにする。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率 80%以上。(H25 ; 77.6%)</p> <p>・ホームページの1日当たりのアクセス数10%増。(H24 ; 133.3件)</p> <p>・連携関係にある学校、施設、自治会等への配布・掲出回数、年間10回以上の水準維持。(H25 ; 10回)</p> <p>・学校説明会等の参加者数を10%増。(H25 ; 1,805名)</p>	<p>・肯定率は83.6%と目標を上回った。このことは、各学年や分掌で組織的な動きができていたり、教育相談支援委員会等で課題のある生徒に対して教員が連携して対応したことが評価されているものと考えられる。今後も組織的な対応ができるよう努めたい。(○)</p> <p>・アクセス数は倍増(133.3/日→262.7/日)。この変化は、和太鼓部全国優勝及びNHK大阪放送局制作のドキュメント番組放映の影響が大きいと考えられる。(◎)</p> <p>・新聞「芥川」の連携団体等への配付回数は10回。この中には200号記念号も含まれている。次年度は文化祭等のイベントを告知する記事も増やしていきたい。(○)</p> <p>・学校説明会等の参加者数は2,005名と前年度比10%増の目標を達成した。中でも、オープンスクールの参加者数は初めて500名を超えた。(○)</p>